

## 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人岩手大学

### 1 全体評価

岩手大学は、「岩手の大地とひとと共に」をスローガンに、地域の中核的学術拠点として地域を担う指導的人材の育成とその基盤となる学問諸分野の研究を行い、また、被災県にある国立大学として地域の復興推進に取り組むことを目指している。第3期中期目標期間においては、地域を先導する大学として、地域再生の課題解決をはじめ地域社会の持続的発展のための課題を中心に置きつつグローバルな視点も含めた教育・研究・社会貢献等の活動を展開し、地域に根差して成果を世界に発信するとともに、復興と地域創生を絡めた新たな教育・研究の国際展開に全学を挙げて挑むこと等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域を軸とした教養教育と専門教育の連携を強化するとともに、地域と連携した教育活動支援や学生への経済的支援に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 学部横断の教育プログラム「IHATOVOグローバルコース」において、外国語、コミュニケーション、国際教養、実践の4つの領域に分類された授業、課外活動、「Global Mileage」（グローバルコースに登録された授業等に参加することでマイルを付与する制度）の取得によるインセンティブについて、広報活動等の取組を行ったことにより、令和2年度末の「Global Mileage」取得率は全学生の50.1%で、中期計画に掲げる「Global Mileageの取得は全学生の50%以上」を達成している。（ユニット『いわて協創人材』に求められる教育のグローバル化の推進」に関する取組）
- 令和元年度に実施した三陸復興・地域創生推進機構の取組に係るアドバイザリーボードによる外部評価結果を踏まえ、これまでの三陸復興活動の総括や、防災等に関する教育・研究の成果を地域住民や自治体等と共有する目的で、岩手大学防災・地域創生シンポジウム「大規模災害から復興、防災そして地域創生へ」を開催し、三陸復興を含む地域創生事業の成果を岩手県内外に発信している。また、令和2年度に実施したアドバイザリーボードによる外部評価では、地域創生モデルに取り組む新たな事業（地域創生モデル構築活動）において、岩手県北地域における生漆生産技術の高度化の推進等、地域ニーズに沿った研究が行われているなどの高い評価を得ている。（ユニット「三陸復興事業及び地域連携事業を長期的に継承する体制の整備」に関する取組）

## 2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ ふるさと納税制度を活用した教育研究活動支援

大学と釜石キャンパスのある釜石市との連携を一層推進していくことを目的に、ふるさと納税制度を活用した教育研究活動支援事業を令和2年10月より開始している。同事業に係る令和2年度のふるさと納税額は約412万円であり、釜石キャンパスと釜石市が取り組むサーモン養殖に関する研究や学生が取り組む地域活動支援費に活用されている。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

---

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

### ○ 地元商店街との連携による学生支援

新型コロナウイルス感染症で影響を受けた学生への経済支援及び地元商店街の消費拡大等を目的に、大学と地元の商店街協同組合とが連携した経済支援事業を実施している。同事業は、学生を対象に盛岡市上田地域等の店舗で利用できるプレミアム商品券を販売し生活上のサービスを安価で受けられるという学生支援と、消費の拡大や情報発信による商店街の活性化を目指している。事業の実施に当たっては、商店街の魅力を発信するパンフレット作成等を学生が担当したほか、盛岡市の補助金及び大学の基金が活用されており、今後も地元の自治体等と連携した取組が期待される。